

資料館だより

発行所

高松宮記念ハンセン病資料館
〒189 東京都東村山市青葉町4-1-13
電話 0423-96-2909
FAX 0423-96-2981
郵便振込 00130-7-764159
高松宮記念ハンセン病資料館運営協力会

イベントとガイドで

啓蒙と理解深まる

高松宮記念ハンセン病資料館が開館してはや一年半が経ちましたが、その間、多くの皆様からご支援ご鞭撻を頂き乍ら大過なく一九九五年の新春を迎えることが出来ましたことを関係者一同、先ず御礼を申し上げます。

昨前半は阿部正英。パステル展、ゼミナール「ハンセン病を探る」、全生園・復生病院昔むかし写真展、開館一周年記念シンポジウム「らい予防法改正問題をめぐって」などのイベントを開催しました。後半も難病団体（七団体）の交流会、国吉信遺作展、全生園看護学生の「資料館建設の意義を考える」展などを開催し、多くの方々の関心を集めて参りました。

開館以来の来館者は昨年十一月までに一万五千人を

越え、一日平均四十人台を保っております。来館者の四割強は団体（二〇七団体六五〇六人）であり、その



謹賀新年

主なものはやはり看護学校関係で、北海道から鳥取まで三十四校に及び、中には三回も四回も来館している学校もあります。

昨年九月以降来館した団体の多くがレポートや感想文を書き、送ってくれましたが、その数は八団体で三

百十七通に達しています。また十月以降の館内「来館者の声」も百通を越えており、ビデオや運営委員の話ガイドの展示説明等が来館者に徐々に理解されてきているものと思われま

特に最近では地元東村山市の小・中学校二十二校の教頭会と校長会、秋津東小学校、青葉小学校の生徒たちや、清瀬市の小・中・高校の生徒、中学校の社会科の先生方なども来館されております。

立教大、上智大、中央聖書学校、桜華女学院、衛生福祉大学看護科（栃木）などの学校関係に、曹洞宗宗務庁、真宗大谷派を始めとする仏教関係、各キリスト教関係の来館者も多くありました。

また厚生省放射線技士会（東京・埼玉）、全国介護員研修会、栗生の看護婦さん一行など幅広い層の来館があり、ハンセン病の理解と啓蒙に明るいものを感じております。

資料がらいつまでも 生きてほしい

成田 稔

当資料館の展示資料は、来館者には自由に見てもらっているが、事前に申し込めば、一時間ほどかけて館員(当館運営委員)が説明もする(有料)。

説明に当るのは、平沢保治委員がほとんどだが、ときには佐川修委員が代る。両委員ともハンセン病の回復者であり、多磨全生園患者自治会の役員を永く勤めていることもあって、話に実感がこもっている上に巧みでもある。

偏見と差別をテーマにした資料館は限られており、しかも病氣(ハンセン病)についてのそれとあって、看護学生たちの来館が少なくない。未だ構想の域を出ていないが、近いうちに医学的資料の展示を予定しており、これが実現すると医

学生たちの来館も増加しよう。

ただ何ごとによらず、過去の事実を実感として印象付けるのは、かならずしも容易ではないが、平沢委員らに届く看護学生の感想文を読むと、強烈に印象付けられているのがよく分かる。

これらの文章の中から、展示資料の持つ意味を逆に教えられたりするが、そこに平沢委員らの説明の確かさがうかがわ

れる。やはり私のような第三者と、偏見と差別との苦難の中に身を置いた当事者との違いだろうか。それにしても、平沢・佐川両委員のボランティア的協力に、いつまで頼れるかは疑問である。できれば今のうちに、展示資料に直接

間接関わりのある人々の声を、録音して保存しておきたいものだが……。

初夢で終る企画かもしれないが、「見ただけ、聞いただけ」の資料に終らせず、「生きた資料」になることを目指したい。

(当資料館運営委員長)

資料館西側の畑に 花木を移植

今年度の全生園第一センター整備工事に伴ない、管理棟南側その他に植えてあった金木犀、紅梅、紫式部など、くちなしなど十本を資料館西側の畑に移植して頂きました。

資料館西側は大型バス三台、乗用車十一台の駐車場



金木犀の移植作業

があり、その南側の畑には柚子、牡丹などの他に、今コスモスに代わって菜の花が育てられています。その東側に花木を移植したことで、この春の花見時が楽しみになってきました。

年末年始の資料館 休館のお知らせ

12月27日(火)より新年は1月6日(金)まで休館致しますので、よろしくお願ひ申し上げます。



説明を聞く青葉小学校生

団体来館者から 300を越す感想文やレポート

人間同士の関わりを
栃木県立衛生福祉大学
保健看護学部本科 女性

資料館内に展

示されていた
生々しい写真や
数々の展示品、
また患者さんか
ら直接の説明を
受け、今まで知
らなかつた世界
であつたため、
とても衝撃的で
あつた。好きで
なりたくてハン
セン病にかかつ
たわけではない
のに、周囲から

の冷たい視線や偏
見により、すぐく
堪えがたい苦痛を
うけたものと思う。

でも現在は全生園内で人間
対人間同士の関わりをされ
ていると今回の見学で確認
できた。説明して下さつた
方が言つていたとおり「看
護とは特別なことをするの
ではない。偏見をもたず人
間同士の関わりをしていつ
て下さい」という言葉を忘
れず、今後看護をしていき
たい。

宗教者としての自覚を

曹洞宗僧侶 群馬 S

今はすでに日本では絶滅

二階展示場の第二コーナ
ーには戦前戦後の雑居部屋
が復元されていますが、観

けるとの声もあり、この程
二体を追加しました。
実際にはまだ一体不足し

雑居部屋の住人 七人のいさご

ている訳です
が、当時の共
同生活の様
が、さらに

す。しかし、八人部屋に五
体のマネキンでは迫力に欠

アルになり、注目されるこ
とと思います。



していると思つていたハン
セン病が、このような形で
法の基で隔離され、同和問
題以上の「過去、現在、本
人」という差別意識を持た
れている姿を見た時、とて
も悲しい思いがしました。

資料館の子供たちの写真を
見た時、ふと「もし自分の
家族、自分の子がこの病魔
に犯されたら」と想像した
ら目に涙が浮かんでいたた
まれない気持ちになりました。
時代背景とはいえ、民衆
を惑わし、現在までその根
強い差別意識を生み出した
日本仏教の「罪」に対し、
深い怒りを覚えます。と同
時に宗教者としての自覚と

責任の重さ、「言葉」の重
み、恐さを痛感しました。
このような差別は宗教以前
の人間として許されないこ
とだと思ひます。

常任相手の立場で

小樽病院高等看護学院
25期生 K

ハンセン病という名前は
聞いたことがありましたが
詳しいことは知りませんで
した。資料館で案内をして
頂いたり、お話を聞いたり
して、ハンセン病の人が同
じ人間なのにとてもひどい
差別を受けていることを知
り、悲しくなりました。

これは実際にあつたこと
で、この事実は忘れてはな
らないことだと思ひます。

私たちの知らない過去に
は、この資料館だけでは伝
えることが出来ないくらい
そして私たちの想像をはる
かに越えるくらいの事実が
あつたのだと思ひます。

これから看護の道に進も
うとしている自分にとって
は、常に相手の立場に立つ

て物事を考え、行なってい
くことを忘れてはいけな
いと思ひました。

見学は一生忘れない

米子病院附属看護学校
27回生 F生

ハンセン病というのは授
業などで少しは聞いていま
したが、詳しくは理解して
いませんでした。資料館を
見学させて頂いて、とても
ショックを受けました。

現代医学では簡単に治る
のに、昔は不治の病、伝染
病ということで、あんなに
も差別され、ひどい生活を
送つておられたなんて初め
て知りました。患者さん
のお話を聴かせて頂き、非常
に胸が痛みました。

見学させて頂いていただい
たことは一生忘れることは出来
ません。患者さんの受けた
苦痛、つらさを忘れること
なく、多くのことを学び、
よい看護婦になれるよう頑
張ります。



来館者の声

写真に見えたえが

●学生 19才 女性

今回で二度目の訪問ですが、部屋の中に四人の人形が座っているのがとても

アルで、原爆資料館を思い出しました。写真なども多く展示されており見ごたえがありました。

●学生 18才 女性

大学の授業でハンセン病の研究をすることになり、

野に伏し、山を越え、村から町へ、庶民のための極楽往生と念仏を広め、一生を旅した僧がいた。名を一遍智真といった。

一遍は延応元年、伊予(愛媛県)に生まれ、十才で仏門に入った。諸国を行脚し修業を積んだが、三十六才のとき、熊野本宮証誠殿で熊野権現より念仏賦算の啓示を受け、だれ彼の区別な

●学生 21才 男性

ハンセン病を知る上でとてもよい展示の数々だと思う。あまりにも知らなかったことが多く、改めて自分の不見識を思い知らされた。

●小学生 10才 女性

ハンセン病にかかった人はかわいそうだと思いました。とくに「東村山駅」という所を読んで、人力車をひく車夫はひどいと思いました。またきたいです。

●その他 50才 女性

非常に感動しました。同じ皇族でもやはり高松宮は、

めながら人々を熱狂的な信仰に導き、時宗の開祖となつた。

「一遍上人絵伝」も「聖

大変偉大な方であったと感じました。

●会社員 24才 男性

もっと広く宣伝してほしいと思う。

●主婦 41才 女性

もう少し社会復帰した人達の話や、差別されたことなどの話を知りたかった。

また、園内の暮らしぶりなどが、もっとリアルに知りたかった。

全生園と資料館

東村山30景に入る

東村山市では十一月に市

問題提起している。

ただし仏罰の極致とされた癩であれ、癩者はすでに罰を受け、清められ、現身

のまま仏になれる者であるとして、一遍は時衆(信徒)と目したり、布教の対象にしていたし、従って没後、

一遍の死に殉じ、入水往生を遂げた癩者のいたことも

「絵伝」「聖絵」には画かれて

ている。

制三十周年記念事業として

「東村山30景」を決定しました。これは市民の心をな

ごませ安らぎのあるまちの風景、東村山らしさをも

し出す行事の情景、伝統ある文化の景など、市民から

寄せられた様々な景観の中から、選定委員会が慎重に

審議、決定したもので、神社、お寺、公園などと共に

「多磨全生園と高松宮記念館」が選ばれました。

◎あとかぎ

昨年は「らい予防法」問題で揺れた一年であった。

二十八年の予防法闘争時、九項目の附帯決議の中に

「近き将来、本法の改正を期す」との一項があった。

あれから四十二年、勿論当時とは社会情勢も、療養所

内も大きく変化したが、今年こそ人間性回復へ向けて

飛躍の年となってほしい。

昨年二月より横浜から毎週土日の二回、交通費自分で資料館へボランティアに来て

いるK君(会社員・独身)に感謝!

(修)

先駆者②

一遍上人

一二三九〜一二八九

同時に癩者、

非人、乞食僧などをグルー

プに分け、身分制社会にお

ける差別との関連について

和田峠の観音堂(兵庫県)

で五十一才で亡くなるまで諸国を巡り、踊り念仏を勧